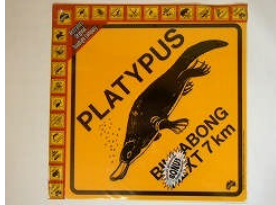


外国ジャーナリズム I A -資料



- オセアニア地勢図
- オセアニアの歴史

オセアニアの歴史

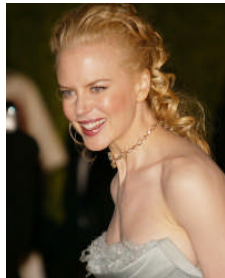
1

WHO?



オセアニアの歴史

2



オセアニアの歴史

3

ステレオタイプ:W.リップマン 『世論』

「われわれはたいいていの場合、見てから定義しないで、定義してから見る。外界の、大きくて、盛んで、騒がしい混沌状態の中から、すでにわれわれの文化がわれわれのために定義してくれているものを拾い上げる。そしてこうして拾い上げたものを、われわれの文化によってステレオタイプ化されたかたちのままで知覚しがちである」

「単純化による思想の節約」

オセアニアの歴史

4

オセアニアの歴史(1)

- 16世紀－18世紀＝マゼラン大航海時代 ヨーロッパ世界に知られる[オランダ、スペイン]
- 18－19世紀＝略奪、奴隷がり、搾取、悪疫、人口の激減、植民地化 [イギリス、フランス] 1788年 オーストラリア
- 普仏(1870/71) 列国によるオセアニアの再分割 伝統的社会的変容:フィジー、トンガ、ハワイ消滅

オセアニアの歴史

5

オセアニアの植民地化:19C

- ミッションラッシュ:キリスト教の布教
- 1828:オランダ⇒ニューギニア領有
《英国》
- 1840:(ワイタング条約)⇒NZ植民地化
- 1850:オーストラリア植民地政府樹立
- 1874:フィジー領有
《フランス》
- 1842:タヒチを保護下に
- 1843:ニューカレドニアの領有宣言

オセアニアの歴史

6

メラネシアの場合

19c前半: 白檀(びやくだん)、ナマコ

19c後半: プランテーション; サトウキビ、綿花

→ 労働力の輸出

ニューギニア高地人 × オーストラリア人

- 金と鉄の釜; 銃

オセアニアの歴史

7

1880S以降のオセアニア

ドイツの進出と欧米列強の植民地化

- 1857: サモアに交易拠点
- 1884: 英国からニューギニア東部を分割
- 1899: サモア
- 1887: 英仏によるニューヘブリデスの分割
- 1899: 独、英、米協約

オセアニアの歴史

8

植民地(COLONY)

略奪植民地	商業(商業根拠)
商業植民地	農業(移住)
農業植民地	栽培/開発
栽培植民地(投資植民地)	軍事
	刑罰

オセアニアの歴史

9

オセアニアの歴史(2)

- 20世紀初頭 オーストラリア、ニュージーランドが独立
→英連邦系の植民地支配/フランス海外領/
- [西欧の南海]
 - ソ連の太平洋地域への関心
 - ANZUSの弱体化/フィジーのクーデター
 - ニューカレドニアの独立運動
 - 旧宗主国の経済悪化による援助後退
- 1960-70年代 島々が独立
- 1970年代 人々の民族的意識が高まる
 - 西欧諸国一辺倒から自主外交へ

オセアニアの歴史

10

近代以前における日本の南太平洋観

初期の南太平洋観

- 19世紀中葉頃まで: ニューギニア、珊瑚諸島など
- 18,19世紀の地理学書: 桂川(1792), 箕作(1846)
- 1884年: 志賀重昂『南洋時事』: 南太平洋の実態を国際的、地理的、経済的、文化的に紹介→「南洋」

オセアニアの歴史

11

日本と南太平洋

1868: 日本人移民153名
ハワイへ
1884: 海軍練習艦「筑波」、
太平洋諸島を訪問
1889: 軍艦「金剛」「比叡」
南海航海
1892: ニューカレドニアに
初の日本人契約労働者
1914: 日本海軍、赤道以
北の独領ミクロネシアを占
領→1920: 国際連盟、**旧
独領ミクロネシア**を日本の
委任統治領に決定

1922: 日本政府、パラオ
のコロールに**南洋庁**を開
設。原住民は「島民」とし、
日本語の普及と公学校
虚勢で勤労精神の滋養
をはかる。

1935: この頃から委任統
治下の「南洋諸島」でひ
そかに軍備を進める/矢
内原忠雄『南洋群島の研
究』/ミクロネシアにて国
勢調査

1937: 「要塞の島」

オセアニアの歴史

12

南洋委任統治

ミクロネシアの赤道以北:マリアナ、カロリン、マーシャル諸島、パラオなど1400の小島群

住民約5万人

- 日本人:5.2万人(1933)

パリ講和会議(1919)、ベルサイユ条約⇒統治権を獲得

1919:南洋神社

- 国際連盟脱退(1933)以降日本色の強化
- 統治を継続

1920:南洋興発株

- 委任統治下の精糖事業

1936:南洋拓殖株

- 資源開発を目的とした国策会社:拓殖事業経営+拓殖資金の供給

オセアニアの歴史

13

オーストラリアと南太平洋

「覇権国家」:オーストラリア帝国主義

- 100年以上にわたり南太平洋地域で活動
- 特定地域に限定された: regionalism
- 島嶼国による対オーストラリア依存体質
- 対外援助政策に占める同地域の重要性、特殊性

オセアニアの歴史

14

太平洋島嶼諸国関係

南太平洋委員会(SPC,1947)

- オランダ、イギリス、フランス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド=6カ国
- 現在は太平洋共同体=オランダ(62)、イギリス(95)脱退。

1960s:フランスによる核実験

南太平洋フォーラムの結成(SPCF1971)

- 太平洋島嶼5か国+Aus,NZ
- 南太平洋経済協力機構(SPEC)

オセアニアの歴史

15

いくつかの問題

●ANZUS APEC SPF S
PC

●ラトロンガ条約:非核

●オーストラリア・ニュージ
ランド経済協力緊密化協定

●ミクロネシア自由連合

●極小島嶼国の抱える問題

●資源保護

●ジョンストン島問題:

●プーケンビル分離独立問題

●フィジー憲法

●ODA政策

●東チモール問題

【Bテキスト:第8章】

オセアニアの歴史

16

VTRから

日豪関係:貿易

日本との交流

白豪主義

開かれた国

アジアとの関係

第二次世界大戦

選挙制度

多文化主義

日本語教育

地理的偏在

科学技術、医療制度

自然 環境保護

人種差別

ゆとり

オセアニアの歴史

17
